



100年前の原始性が感じられる森林を復活させよう

ニュースレター

山の日記念

野幌「森林づくり塾2016」

石狩地域森林ふれあい推進センター

TEL: 011-533-6741
FAX: 011-533-6743

第2回 「森林づくり塾 2016」を開催しました

「野幌森林公園の歴史を学ぼう ～戦後から 70 年～」

「森林づくり塾」は、平成 16 年の台風被害にあった野幌森林公園の自然再生プロジェクトの一環として、市民の皆さんが、植栽などの森林づくりに関する実体験や知識の習得をしながら、森林と人との係わりなどについて学んでいくものです。

今年度は年3回の予定で、第2回目の「森林づくり塾」を7月2日(土曜日)に開催しました。

今回は、野幌森林公園の歴史について森林と人との係わりをテーマに公園の歴史に精通しておられる地域史研究家・西田秀子氏を、お招きし講義していただきました。



地域史研究家 西田 秀子氏



初めに、自然ふれあい交流館レクチャールームにおいて、昨年講義していただいた明治初期から終戦までの 70 年間のおさらいをしていただき、続いて、戦後から現在にいたる、野幌森林公園内やその周辺地の農地としての開拓や資源生産地としての開発から都市周辺の森林レクリエーション地域としての開発や自然休養林としての指定など、野幌森林公園が時代の背景を背負って移り変わっていった経過等の講義をしていただきました。

塾生の中には、戦前の開拓時代から移民されて来た方のお孫さんも参加されており、忘れていた当時のことを思い出し感激し、昼食中に西田さんと当時のことについてお話をされ情報の交流をされておりました。

午後からは、フィールドワークとして野幌森林公園内を歩きながら、新野幌開拓地跡地や資源生産開発予定だった箇所、新野幌小学校跡地などを見ながら、当時の様子などの話をさせていただきました。



その後、植樹してから100年以上経つ樹木園を見学しました。ここは、野幌林業試験場の開設後、北海道の主要樹種並びに異郷土樹種の造林特性を把握するため明治42年から造成(植栽)したもので、当時202種類の樹木が植えられ、北海道林業の参考となっているものです。

先人たちが植栽してから100年以上の樹木の姿を見て、感動しました、



最後に、東野幌へ移動し野幌森林公園の方に振り向くと、平地のように見えていても緩やかに傾斜しており、泥炭地である東野幌を農地として開拓するため、水を切るための大側溝の様子などが解りました。

また、農地に開拓する以前の当時の風景が解るものとして現在も保全されている「ノハナショウブ」の群生地を見ました。当時は、東野幌一面にノハナショウブが咲き乱れていたようです。



旧新野幌小学校の前で記念撮影



東野幌から大沢口へ移動中、昨年の塾生からのリクエストで当時の野幌林間大学の校歌を塾生の皆さんで歌うという余興もあり講師の西田氏も大喜び、

野幌森林公園の時代の背景や開拓の様子などを知ることができ有意義な1日となりました。